

2016年度いばらき未来基金冠助成

「積水化成品基金」活動報告書

活動名	里山保全整備活動
団体名	特定非営利活動法人こが里山を守る会
本助成事業で実施した活動内容	フィールド(稲宮の森・獅子が崎)の保全整備(下刈・除間伐・植樹・不法投棄ゴミの搬出・竹林整備)を実施した。又、三和こども園児及び上大野小学校・総和北中学校生徒参加の里山体験活動として、生物調査(スズメバチの捕獲器設置・タニシ・ドジョウの放流)、里山観察・里山の恵み体験(山栗拾え・椎茸の植菌)、里山整備体験(枯損木の調査・伐採・植樹)活動を実施した。
申請書に記載した「目標」に対する実施「結果」	里山整備活動は、月2回の定例活動日(第2・3日曜日)に実施。及び、子どもたち参加の体験活動は園児1回。小中学生は各4回、計9回実施した。この体験活動を経験したことにより自然環境保全の重要性を認識し、里山を次の世代に残すことが期待できる。
申請書に記載した「目的」に対する「成果」や地域社会へのインパクト	身近なふるさとの里山の環境保全と景観向上を目指し、整備活動を展開しているが、子どもたち参加の体験活動は特に市民の関心が高く、産業廃棄物・生活ゴミの不法投棄が少なくなってきた。又、新たにフィールドに隣接する山林の所有者からも、整備依頼の要請がある。
申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか?	身近な里山が保全整備されていく現状と、子どもたちの自然環境体験学習活動を市民が周知することにより、自然環境保全とふるさとの里山の景観を残すことに繋がり、毎年実施している市民参加の観察会の関心も高く、年々参加者も増えている。
活動実施後の展望や新たに増えてきた地域課題	稲宮の森は、永年管理が放置されていたため、枯損木が多く発生していることと、古河市の中心部に位置し交通至便な場所等の地理的要因により、都市部からの産業廃棄物の不法投棄場所になっているため、保全整備とゴミの撤去を継続するとともに、市民の憩いの場所となるような里山として、桜を植林し景観の向上を図っていく方針である。
積水化成品工業へ一言	整備活動に、今まで同様に社員の参加をお願いしたい。併せて助成金の継続支援を希望します。
自己評価	A. 目標を超える成果を得ることができた <input checked="" type="radio"/> B. ほぼ目標どおりの結果となった C. 残念ながら目標を達成できなかった D. その他 ()

2016年度いばらき未来基金冠助成「積水化成品基金」活動決算書

収入の部

収入内訳	予算額 (円)	実績額 (円)	備考
積水化成品基金	200,000	200,000	
自己資金	100,000	259,483	
計	300,000	459,483	

支出の部

支出科目	予算額 (円)	実績額 (円)	備考
需用費	235,000	266,098	燃料費 121,268円 運営管理費79,000円 什器備品 65,830円
役務費	15,000	31,385	保険料 31,385円
使用料及び賃借料	50,000	162,000	重機・トラック使用損料 162,000円
計	300,000	459,483	